

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名： 三浦 真紀

事業名	一般国道58号 読谷道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけんよみたんそんおやし</small> 沖縄県読谷村親志 至： <small>おきなわけんよみたんそんふるげん</small> 沖縄県読谷村古堅			延長	6.0km
事業概要					
<p>一般国道58号は、沖縄本島西海岸を南北に走る交通の大動脈であり、沖縄本島中南部の人口集中地域や県都那覇市と、沖縄本島北部の観光・リゾート地域及び農山村地域を結ぶ主要幹線道路である。読谷道路は沖縄西海岸道路の一翼を担い、本島北部と中南部を結ぶ主要幹線道路となり、読谷村、嘉手納町の国道58号の交通混雑の緩和はもとより、地域の産業、観光及び地域振興プロジェクトを支援する道路として、平成13年度に事業化された。</p>					
H13年度事業化		都市計画決定－		H13年度用地着手	
H13年度工事着手					
全体事業費	620億円	事業進捗率	23%	供用済延長	1.3km
計画交通量	27,500台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.0 (残事業) 3.6	総費用 (残事業)/(事業全体) 353/546億円 事業費：321/504億円 維持管理費：33/42億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,271/1,646億円 走行時間短縮便益：1,066/1,381億円 走行経費減少便益：140/194億円 交通事故減少便益：65/71億円	基準年 平成22年	
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施					
交通量変動	B/C=3.4 (交通量-10%)	B/C=3.8 (交通量+10%)			
事業費変動	B/C=3.3 (事業費+10%)	B/C=4.0 (事業費-10%)			
事業期間変動	B/C=3.4 (事業期間+20%)	B/C=3.7 (事業期間-20%)			
事業の効果等					
①円滑なモビリティの確保					
・現道の渋滞損失時間の削減が見込まれる。【約606万人時間/年→236万人時間/年】（未整備→完成4車線）					
②都市の再生					
・読谷道路を含む地区（17.8ha）にて「大木地区土地区画整理事業」を実施中（H22組合設立予定）。					
・読谷道路を含む読谷補助飛行場跡地における、公共施設、道路、農地の基盤整備が進行中					
③個性ある地域の形成					
・世界遺産である座喜城址から近郊の観光拠点である北谷町（アメリカビレッジ）への所要時間が約8%短縮。【25分→23分】（未整備→完成4車線）					
④安全で安心できる暮らしの確保					
・読谷村役場から第3次医療施設である県立中部病院への所要時間が約6%短縮。【31分→29分】（未整備→完成4車線）					
⑤地球環境の保全					
・CO2排出量が約1.5万t/年削減（約0.7%）削減【207.2万t/年→205.7万t/年】（未整備→完成4車線）					
⑥生活環境の改善・保全					
・NOx排出量が約37.8t/年削減（約21%）削減【183.1t/年→145.2t/年】（未整備→完成4車線）					
・SPM排出量が約3.5t/年削減（約20%）削減【17.3t/年→13.7t/年】（未整備→完成4車線）					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>沖縄西海岸道路は、沖縄本島の道路網の骨格となる地域骨格道路であり、車社会である本県の振興発展に極めて重要な役割を担うものである。</p> <p>現在、延長約50kmの全長の各区分にて鋭意事業を推進されているが、暫定供用している一般国道331号豊見城道路や糸満道路の各区分においては、渋滞緩和や豊崎タウンへの企業立地促進などの事業効果が発現されており、事業の投資効果の有効性が明らかとなっている。また、一般国道58号読谷道路についても沿道には役場や運動公園などの公共施設や大型の商業施設も整備されており、地域活性化につながると期待されている。</p> <p>このように各区分の暫定的な部分供用においても事業効果が明らかになっていることから、全線を結ぶ早期整備が必要と考える。</p>					

したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。	
事業評価監視委員会の意見	・ 対応方針（原案）に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・ 国道58号現道の交通量は増加傾向である。 ・ 読谷村の人口、観光入込み客数は増加傾向である。 ・ 平成18年に読谷補助飛行場が返還されており、その中心を貫通する読谷道路を中心とした基盤整備、土地区画整理事業（予定）が進行中。
事業の進捗状況、残事業の内容等	・ 読谷道路L=6.0kmのうち、1.3kmが平成15年度までに部分暫定供用済み。 ・ 事業進捗率は23%、用地取得率は91%（平成22年度末見込み）。
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	・ 平成15年4月に一部区間暫定2車線で開通し、部分暫定開通の一定の効果も発揮されている。今後は早期事業効果発現を図るため、全線2車線暫定供用に向けて、鋭意事業の進捗を図る。
施設の構造や工法の変更等	・ 技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進。
対応方針	
対応方針決定の理由	以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。
事業概要図	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道58号 <small>なほにし</small> 那覇西道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけん なほしわかさ</small> 沖縄県那覇市若狭 至： <small>おきなわけん なほしかがみず</small> 沖縄県那覇市鏡水			延長	3.0 km
事業概要					
<p>一般国道58号は、沖縄本島西海岸を南北に走る交通の大動脈であり、沖縄本島中南部の人口集中地域や県都那覇市と、沖縄本島北部の観光・リゾート地域及び農山村地域を結ぶ地域高規格道路である。那覇西道路は沖縄西海岸道路の一翼を担い、本島北部と中南部を結ぶ主要幹線道路となり、那覇市街部及び周辺部の交通混雑緩和、那覇港、那覇空港へのアクセス向上を目的とし平成13年度に事業化された。</p>					
H13年度事業化		H13年度都市計画決定		H14年度用地着手	
H13年度工事着手					
全体事業費	1,678億円	事業進捗率	99.7%	供用済延長	0 km
計画交通量	20,500台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 0.2 (残事業) 17.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 24/1,956億円 事業費：4.6/1,937億円 維持管理費：19/19億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 408/408億円 走行時間短縮便益：296/296億円 走行経費減少便益：70/70億円 交通事故減少便益：42/42億円	基準年 平成22年	
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施					
交通量変動	B/C=14.1 (交通量-10%)	B/C=20.1 (交通量+10%)			
事業費変動	B/C=16.6 (事業費+10%)	B/C=17.3 (事業費-10%)			
事業期間変動	B/C=16.9 (事業期間+20%)	B/C=16.9 (事業期間-20%)			
事業の効果等					
①円滑なモビリティの確保					
<ul style="list-style-type: none"> ・並行路線である国道58号に集中する交通が分散し、並行区間の交通量が22%減少。渋滞損失時間が19%削減。 ・那覇空港から那覇新港までの所要時間が56%短縮。【27分→12分】（未整備→完成6車線） ・国道58号の平均旅行速度が20%上昇。 					
②個性ある地域の形成					
<ul style="list-style-type: none"> ・那覇港は港湾に加え、ビーチ等の総合的な空間整備を計画しており、那覇西道路が供用することで利便性の向上が期待される。 					
③安全で安心できる暮らしの確保					
<ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港周辺から第3次医療施設である浦添総合病院への所要時間が約17%短縮。【54分→45分】（未整備→完成6車線） 					
④地球環境の保全					
<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量が約0.3万t/年削減（約0.14%）削減【206.0万t/年→205.7万t/年】（未整備→完成6車線） 					
⑤生活環境の改善・保全					
<ul style="list-style-type: none"> ・NOx排出量が約5.4t/年削減（約6%）削減【95.8t/年→90.4t/年】（未整備→完成6車線） ・SPM排出量が約0.9t/年削減（約9%）削減【9.1t/年→8.2t/年】（未整備→完成6車線） 					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>沖縄西海岸道路は、沖縄本島の道路網の骨格となる地域骨格道路であり、車社会である本県の振興発展に極めて重要な役割を担うものである。</p> <p>現在、延長約50kmの全長の各区分にて鋭意事業を推進されているが、暫定供用している一般国道331号豊見城道路や糸満道路の各区分においては、渋滞緩和や豊崎タウンへの企業立地促進などの事業効果が発現されており、事業の投資効果の有効性が明らかとなっている。また、一般国道58号読谷道路についても沿道には役場や運動公園などの公共施設や大型の商業施設も整備されており、地域活性化につながると期待されている。</p> <p>このように各区分の暫定的な部分供用においても事業効果が明らかになっていることから、全線を結ぶ早期整備が必要と考える。</p> <p>したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。</p>					

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・那覇空港は旅客数と航空貨物量、那覇港は取扱貨物量ともに横ばい。那覇空港と那覇港の一体的運用による貨物輸送の効率化も検討されており、那覇西道路が整備されることで効果発現に大きく寄与する。
- ・並行する国道58号は、交通量が7万台/日、混雑度は1.5を超えている。
- ・ピーク時旅行速度は14.3km/hと、全国ワースト1位となっている。
- ・死傷事故率が300件/億台キロを超える箇所が3箇所存在している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は99.7%、用地取得率は99.3%(平成22年度末見込み)。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・平成23年の全線暫定4車線供用に向け事業を継続中。

施設の構造や工法の変更等

- ・工法の変更等によるコスト縮減に努めながら事業を推進。

対応方針

評価手続き中

対応方針決定の理由

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道329号 金武バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	沖縄総合事務局
起終点	自：沖繩県金武町字金武中川 至：沖繩県金武町字金武浜田			延長	5.6km	
事業概要	<p>国道329号は、名護市を起点とし本島東海岸を南下し那覇市に至る延長約76kmの主要幹線道路である。金武バイパスに並行する現道区間の金武町中川から金武浜田にかけては、急カーブや急勾配など線形不良箇所が複数あり、交通事故の恐れが非常に多い箇所となっている。また、沿道には、基地入口、住宅、商店、公共施設などが密集しており、交差点や車両乗り入れ口も多く、渋滞が発生し、幹線道路としての機能が低下している。金武バイパスは、交通安全の確保、朝夕の交通混雑の解消、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上に大きく寄与する道路である。</p>					
H3年度事業化	都市計画決定		H6年度用地着手	H7年度工事着手		
全体事業費	152億円	事業進捗率	58%	供用済延長	0.8km	
計画交通量	10,300台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 2.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 74/198億円 事業費：46/170億円 維持管理費：29/29億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 212/212億円 走行時間短縮便益：197/197億円 走行経費減少便益：8.1/8.1億円 交通事故減少便益：6.8/6.8億円	基準年 平成22年		
感度分析の結果	<p>残事業について感度分析を実施</p> <p>交通量変動：B/C=3.1（交通量+10%） B/C=2.6（交通量-10%） 事業費変動：B/C=2.7（事業費+10%） B/C=3.0（事業費-10%） 事業期間変動：B/C=2.9（事業期間+20%） B/C=2.8（事業期間-20%）</p>					
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 現道（宜野座IC～金武IC間）の年間渋滞損失時間の削減（約4割削減） （現況：63千人時間/km・年→将来（整備あり）：39千人時間/km・年） <p>②交通安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 現道（宜野座IC～金武IC間）の交通事故密度の削減（約3割削減） （現況：2.7件/km→将来（整備あり）：2.0件/km） 快適な走行が可能な区間の割合が向上（約1割向上） （現況（現道利用ルート）：87%→将来（バイパス利用ルート）：100%） <p>③個性ある地域の形成（観光産業の支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> 金武町の主要観光地「ネイチャーみらい館」の利用者数（年間約3万人） 高速道路から主要観光施設までの所要時間が短縮（金武IC～ネイチャーみらい館で所要時間が約2割短縮（約3分）） <p>④沿道環境（地球環境）の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> C02排出量の削減：H42時：541t-C02/年 N02排出量の削減：H42時：22.9t-N02/年 SPM排出量の削減：H42時：2.3t-SPM/年 					
関係する地方公共団体等の意見	<p>一般国道329号は、沖縄本島の道路網の骨格となる東海岸側の幹線道路であり、基地や住宅、商業施設、公共施設などが密集する金武町の中心部を通過している。その交通量は、年々増加しており、交差点や車両乗り入口も多く、道路線形不良箇所が多いことから混雑を招き、旅行速度は低下傾向にある。そのため、幹線道路の本来の機能である通過交通の処理機能を十分に果たせていない状況となっている。</p> <p>これらを解消するため、一般国道329号金武バイパスが整備されているところであり、用地取得の進捗率も8割、事業全体の進捗も5割を超え、今年度末には全長5.6Kmのうち3.0Kmが供用予定となっていることから、早期の全線供用開始が望まれる。</p> <p>したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。</p>					
事業評価監視委員会の意見	<p>対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。</p>					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>国道329号は、急カーブや急勾配の線形不良箇所が多数存在し、走行時に交通事故の恐れが高い路線となっている。 ⇒交通安全の確保</p> <p>国道329号では、年々の交通量の増加に伴う走行性の悪化により、高速道路までのアクセス性が悪くなり、町内に点在する観光資源への訪問や農作物の出荷の際に利便性を損なっている。</p>					

⇒ 地域交流の促進

・現道区間沿道は、住宅が密集しており、交差点や車両出入口が多いため、渋滞が発生しており、幹線道路機能が低下している。

⇒ 幹線道路としての機能向上

事業の進捗状況、残事業の内容等

全体事業費での進捗率は約58%、用地買収の進捗率は約87%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

今年度末に3工区の供用を予定している。また、早期の全線供用に向けて、現在事業の進捗を図っている。

施設の構造や工法の変更等

当初計画から片側歩道化・植栽帯削除等に伴う道路幅員の見直し、1号橋の橋種の変更等により、事業費の縮減額約35億円（縮減率約19%）の工事コストの縮減を行っている。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議等を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道331号 <small>とみぐすく</small> 豊見城道路		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけんとみぐすくしせなが</small> 沖縄県豊見城市瀬長 至： <small>おきなわけんいとまんしにしぎま</small> 沖縄県糸満市西崎				延長	4.0km
事業概要						
豊見城道路は、沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道331号の渋滞緩和、那覇港・那覇空港へのアクセス向上に資するとともに、那覇都市圏の交通混雑の緩和を目的に計画された、2環状7放射道路として、県南部地域の活性化や物流効率化、さらには観光交流の支援を目的とした道路で豊見城市瀬長から糸満市西崎に至る延長4.0kmの地域高規格道路である。						
H元年度事業化		H10年度都市計画決定		H10年度用地着手		H13年度工事着手
全体事業費		約405億円		事業進捗率		76% 供用済延長 4.0km
計画交通量		36,800台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.4 (残事業) 4.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 110/489億円 (事業費：84/438億円) 維持管理費：26/51億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 463/1,642億円 (走行時間短縮便益：328/1,325億円) (走行経費減少便益：81/224億円) (交通事故減少便益：54/93億円)	基準年 平成22年		
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施						
交通量変動	B/C=3.7 (交通量-10%)		B/C=4.9 (交通量+10%)			
事業費変動	B/C=3.9 (事業費+10%)		B/C=4.6 (事業費-10%)			
事業期間変動	B/C=4.1 (事業期間+20%)		B/C=4.4 (事業期間-20%)			
事業の効果等						
①円滑なモビリティの確保						
・渋滞損失時間の削減量：【整備なし：163万人時間/年→整備あり：45万人時間/年】						
・旅行時間の短縮：那覇空港からひめゆりの塔までの所要時間が短縮【現況一般道：34分→将来豊見城道路完成供用：29分】						
・旅行時間の短縮：那覇空港から沖縄戦跡国定公園の中核施設である平和祈念公園への所要時間が短縮【現況一般道：39分→将来豊見城道路完成供用：35分】						
②物流効率化の支援						
・農産物出荷の搬送時間の短縮が見込まれる。JA糸満の集荷場に近い糸満市真栄里交差点～中央卸売市場（浦添市）の所要時間が短縮【現況一般道：54分→将来豊見城道路完成供用：49分】						
③個性ある地域の形成						
・那覇空港から本島南部への速達性・定時性向上により、南部周遊観光地の集客性の向上が期待される						
④安全で安心できる暮らしの確保						
・豊崎タウンから豊見城中央病院（二次医療施設）までの所要時間が短縮【現況一般道：13分→将来豊見城道路完成供用：12分】						
⑤暫定供用の効果						
・並行路線である国道331号の交通量が8%減少し、豊見城道路は42%増加。						
⑥地球環境の保全						
・CO2排出量が0.9万t/年（約0.5%）削減【206.6万t/年→205.7千t/年】						
⑦生活環境の改善・保全						
・NOx排出量が23.3t/年削減（約22%）削減【104.6t/年→81.3t/年】						
・SPM排出量が2.1t/年削減（約21%）削減【9.9t/年→7.8t/年】						
関係する地方公共団体等の意見						
沖縄西海岸道路は、沖縄本島の道路網の骨格となる地域骨格道路であり、車社会である本県の振興発展に極めて重要な役割を担うものである。						
現在、延長約50kmの全長の各区分にて鋭意事業を推進されているが、暫定供用している一般国道331号豊見城道路や糸満道路の各区分においては、渋滞緩和や豊崎タウンへの企業立地促進などの事業効果が発現されており、事業の投資効果の有効性が明らかとなっている。また、一般国道58号読谷道路についても沿道には役場や運動公園などの公共施設や大型の商業施設も整備されており、地域活性化につなが						

ると期待されている。

このように各区間の暫定的な部分供用においても事業効果が明らかになっていることから、全線を結ぶ早期整備が必要と考える。

したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。

事業評価監視委員会の意見

- ・対応方針（原案）に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・豊見城市をはじめ本島南部に位置する自治体の人口等の伸びが大きい。
- ・豊見城道路・糸満道路沿道には、豊崎タウン、潮崎タウンをはじめ、アウトレットモールあしびな一等の商業施設、道の駅、新しいビーチ等の立地、開業が進んでいる。
- ・沖縄県の観光入込客数の増加に伴い、観光の起点となる那覇空港へのアクセス道路である豊見城道路・糸満道路の重要性が高まる。
- ・豊見城道路が暫定供用したが国道331号はまだまだ渋滞が残る。暫定供用中の豊見城道路についても渋滞が発生。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は76%、用地取得率は100%（平成22年度末見込み）。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・平成23年度に豊崎交差点立体化予定。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進。

対応方針

対応方針決定の理由

以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道331号 <small>いとまん</small> 糸満道路	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけんいとまんしにしぎま</small> 沖縄県糸満市西崎 至： <small>おきなわけんいとまんしまえざと</small> 沖縄県糸満市真栄里			延長	3.4km
事業概要					
<p>糸満道路は、沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道331号の渋滞緩和、那覇港・那覇空港へのアクセス向上に資するとともに、那覇都市圏の交通混雑の緩和を目的に計画された、2環状7放射道路として、県南部地域の活性化や物流効率化、さらには観光交流の支援を目的とした道路で糸満市西崎から糸満市真栄里に至る延長3.4kmの地域高規格道路である。</p>					
H2年度事業化		H10年度都市計画決定		H10年度用地着手	
H12年度工事着手					
全体事業費	約505億円	事業進捗率	77%	供用済延長	0.8km
計画交通量	21,700台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 6.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 127/584億円 (事業費：98/547億円 維持管理費：28/37億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 800/895億円 (走行時間短縮便益：641/730億円 走行経費減少便益：102/107億円 交通事故減少便益：57/58億円)	基準年	平成22年
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施					
交通量変動	B/C=5.8 (交通量-10%)	B/C=7.1 (交通量+10%)			
事業費変動	B/C=5.9 (事業費+10%)	B/C=6.9 (事業費-10%)			
事業期間変動	B/C=6.3 (事業期間+20%)	B/C=6.3 (事業期間-20%)			
事業の効果等					
①「滑なモビリティ」の確保					
<ul style="list-style-type: none"> ・渋滞損失時間の削減量：【整備なし：153万人時間/年→整備あり：47万人時間/年】 ・旅行時間の短縮：那覇空港からひめゆりの塔までの所要時間が短縮【現況一般道：34分→将来糸満道路完成供用：26分】 ・旅行時間の短縮：那覇空港から沖縄戦跡国定公園の中核施設である平和祈念公園の所要時間が短縮【現況一般道：39分→将来糸満道路完成供用：32分】 					
②物流効率化の支援					
<ul style="list-style-type: none"> ・農産物出荷の搬送時間の短縮が見込まれる。JA糸満の集荷場に近い糸満市真栄里交差点～中央卸売市場（浦添市）の所要時間が短縮【現況一般道：54分→将来糸満道路完成供用：47分】 					
③個性ある地域の形成					
<ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港から本島南部への速達性・定時性向上により、南部周遊観光地の集客性の向上が期待される 					
④安全で安心できる暮らしの確保					
<ul style="list-style-type: none"> ・糸満市役所周辺から豊見城中央病院（二次医療施設）への所要時間が短縮【現況一般道：20分→将来糸満道路完成供用：19分】 					
⑤地球環境の保全					
<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量が約0.5万t/年削減（約0.2%）削減【206.1万t/年→205.7万t/年】 					
⑥生活環境の改善・保全					
<ul style="list-style-type: none"> ・NOx排出量が約13.3t/年削減（約23%）削減【56.9t/年→43.6t/年】 ・SPM排出量が約1.2t/年削減（約23%）削減【5.3t/年→4.1t/年】 					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>沖縄西海岸道路は、沖縄本島の道路網の骨格となる地域骨格道路であり、車社会である本県の振興発展に極めて重要な役割を担うものである。</p> <p>現在、延長約50kmの全長の各区分にて鋭意事業を推進されているが、暫定供用している一般国道331号豊見城道路や糸満道路の各区分においては、渋滞緩和や豊崎タウンへの企業立地促進などの事業効果が発現されており、事業の投資効果の有効性が明らかとなっている。また、一般国道58号読谷道路についても沿道には役場や運動公園などの公共施設や大型の商業施設も整備されており、地域活性化につながると期待されている。</p> <p>このように各区分の暫定的な部分供用においても事業効果が明らかになっていることから、全線を結</p>					

ぶ早期整備が必要と考える。

したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針（原案）に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・豊見城市をはじめ本島南部に位置する自治体の人口等の伸びが大きい。
- ・豊見城道路・糸満道路沿道には、豊崎タウン、潮崎タウンをはじめ、アウトレットモールあしびなー等の商業施設、道の駅、新しいビーチ等の立地、開業が進んでいる。
- ・沖縄県の観光入込客数の増加に伴い、観光の起点となる那覇空港へのアクセス道路である豊見城道路・糸満道路の重要性が高まる。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率は77%、用地取得率は100%（平成22年度末見込み）。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・平成23年度に全線暫定供用予定。

施設の構造や工法の変更等

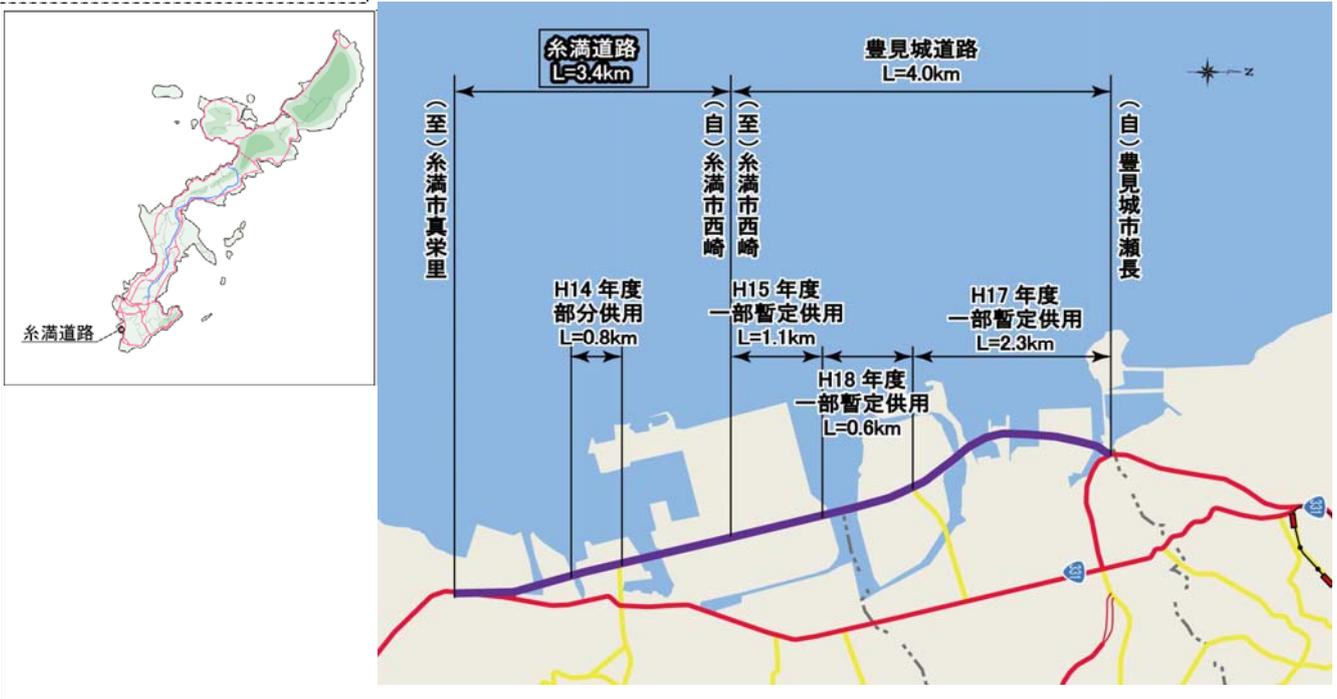
・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進。

対応方針

対応方針決定の理由

以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名： 三浦 真紀

事業名	一般国道506号 <small>とみぐすくひがし</small> 豊見城東道路		事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自： <small>おきなわけんとみぐすくしな</small> 沖縄県豊見城市名嘉地		至： <small>おきなわけんはえぼるちやうやまかわ</small> 沖縄県南風原町山川		延長	6.2km
事業概要						
豊見城東道路は、那覇空港自動車道の一部を形成し、那覇空港へのアクセス向上に資するとともに、那覇都市圏の交通混雑の緩和を目的に計画された、2環状7放射道路として、地域の産業、観光及び地域振興プロジェクト支援を目的とした道路で豊見城市名嘉地から南風原町山川に至る延長6.2kmの高規格幹線道路である。						
H3年度事業化		H2年度都市計画決定		H5年度用地着手		H9年度工事着手
全体事業費	約1,230億円		事業進捗率	86%	供用済延長	6.2km
計画交通量	38,600台/日					
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体) 1.4 (残事業) 3.7	(残事業)/(事業全体) 172/1,542億円 事業費：154/1,496億円 維持管理費：18/46億円	(残事業)/(事業全体) 642/2,212億円 走行時間短縮便益：548/1,796億円 走行経費減少便益：54/259億円 交通事故減少便益：40/157億円	平成22年		
感度分析の結果						
残事業について感度分析を実施						
交通量変動	B/C=2.5 (交通量-10%)		B/C=5.1 (交通量+10%)			
事業費変動	B/C=3.4 (事業費+10%)		B/C=4.1 (事業費-10%)			
事業期間変動	B/C=3.6 (事業期間+20%)		B/C=3.7 (事業期間-20%)			
事業の効果等						
①円滑なモビリティの確保						
・渋滞損失時間削減量：【整備なし：579万人時間/年→整備あり：416万人時間/年】 ・旅行時間の短縮：西原JCTから那覇空港（第二種空港）までの所要時間が短縮【供用前：56分→将来完成供用：21分】 ・旅行時間の短縮：那覇空港から本島北部、中部への速達性・定時性向上。那覇空港から海洋博記念公園（美ら海水族館）への所要時間が短縮【供用前：141分→将来完成供用：106分】						
②暫定供用の効果						
・並行路線である国道329号の上間交差点、仲井真交差点の渋滞が緩和 ・名嘉地交差点の渋滞が解消						
③個性ある地域の形成						
・豊見城市は都市成長力ランキングで全国787都市のなかで1位。						
④安全で安心できる暮らしの確保						
・豊崎タウンから県立南部医療センター（三次医療施設）までの所要時間が短縮【現況暫定供用：27分→将来完成供用：25分】						
⑤地球環境の保全						
・CO2排出量が0.7万t/年（約0.3%）削減【206.4万t/年→205.7万t/年】						
⑥生活環境の改善・保全						
・NOX排出量が20.9t/年削減（約8%）削減【250.7t/年→229.8t/年】 ・SPM排出量が2.2t/年削減（約10%）削減【23.6t/年→21.4t/年】						
関係する地方公共団体等の意見						
那覇空港自動車道は、那覇空港と沖縄自動車道を結ぶ、高規格道路であり、車社会である本県の振興発展に極めて重要な役割を担うものである。 現在、暫定供用している豊見城東道路は、既に供用している南風原道路や今後整備予定の小禄道路と併せて那覇空港に接続することにより、那覇空港アクセスの高速性、定時性の確保、都市部の混雑緩和、更には、観光振興並びに産業振興に寄与する道路である。平成20年3月の全線暫定供用後には、周辺一般道の渋滞が緩和されるなどの事業効果が発現されており、事業の投資効果の有効性が明らかになっている。						

しかし、豊見城東道路は、現在暫定2車線であり、また、実施中の高速道路無料化社会実験に伴う交通量の増加により、那覇空港方面への交通のボトルネックになっていることから、完成形である4車線化の早期の整備が必要と考える。

したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。

事業評価監視委員会の意見

- ・対応方針（原案）に対して審議を行なった結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・那覇市周辺部、なかでも豊見城市、南風原町の人口、自動車保有台数の伸び率は高い。
- ・県全体の観光客数、観光収入の増加しており、本島南部と中部・北部を結ぶ道路としての期待大。
- ・那覇空港では、物流ハブ（拠点）としての活用が計画されており、那覇空港自動車道の整備により空港へのアクセス性が向上し、物流の支援も期待される。
- ・豊見城東道路が暫定供用しても、並行路線の渋滞損失時間は依然高い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は86%、用地取得率は100%（平成22年度末見込み）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・南風原南 I C～豊見城 I Cの完成供用予定

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進。

対応方針

対応方針決定の理由

以上の点を勘案し、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。